

# カトリック山形教会報

# かすみ

# 12

2011.12.24

カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590  
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



12月4日、信者が見守る中、洗礼志願式が行われました。



## 降誕ミサに洗礼の秘蹟

12月4日(日)のミサの中で、渡邊周蔵さん(ヨセフ)、渡邊すみさん(マリア)、渡邊桃子さん(小さき花のテレジア)、渋谷結仁さん(霊名/アグネス)の4人の方が洗礼志願式にあずかった。12月25日(日)・主の降誕のミサで洗礼の秘蹟を受け、信仰共同体の一員となります。私たちと共に神様が示してくださる光の道を歩むことができますようお祈りください。その中のひとり、小学2年生の渋谷結仁さんから洗礼を授かる今の気持ちをいただきました。

### シスターと同じ霊名

アグネス 渋谷結仁<sup>ゆに</sup>(小学2年生)

私は、小学2年生です。復活祭の朝6時に生まれました。お母さんは、とても感動したそうです。赤ちゃんのときシスター・ミシュリンにだっこされて大泣きして、シスターはこまったそうです。

聖マリア幼稚園に3年間通いました。お友だちもたくさんできて、たくさん歌も歌いました。みんなといっしょに、毎日おいのりもしました。聖けきでは、解説と羊の役をしました。幼稚園は楽しかったです。小さいころは、教会は、たいくつで早く終わらないかなあと、思っていました。

教会の友だちがたくさんできたので、今年のサマースクールはとても楽しかったです。とくにあゆつかみが

楽しかったです。横浜のシスターたちと洗礼の話をしました。洗礼名は私と同じアグネスにしてね。」と言われました。

最近、侍者のお仕事も楽しくなってきました。教会学校では、いろいろ学んでいます。おもしろいお話がたくさん聞けます。私は「ごらんよ空の鳥」のひびきが大好きです。

これからも、お母さんとおばあちゃんといっしょに教会に通います。侍者もすらすらとできるようになりたいと思っています。

# 戦後間もないクリスマス

セシリア 結城珠子

『どれほどの信心の進歩が、われにありと思いつつ、またクリスマスきたる。』

このように毎年毎年、待降節の過ごし方に一度でも神の意に叶うものがあつたらうか、と心に問うとき、慚愧たる思いがします。「待降節とは人間が神を待ちのぞむ以上に、神のほうの人々の回心を渴望してその応答をまつこと」とは、若くして早世したユダヤ人の女性思想家「シモーン・ヴィエーユ」は書いています。まだ間がある、まだ時間がある、と思っているうちに今年も降誕祭がやってきます。

今の聖堂が豊敷きだった頃の二十五日の朝ミサが終わると、子供達は聖堂を出て一斉に、古い古い信者

会館に走った。クリスマスの演劇会がはじまるからです。それに何よりも、神父様が用意して下さるわずかなお菓子がいただけるのです。

この日の出し物は「細川ガラシア」、「ヨゼフとマリアの宿さがし」、青年会男子の「股旅もの」でした。みんな素人芸で、紙で作ったかつらが客席までとんで抱腹絶倒の大笑い。小さな女の子が白い短いドレスを着てバレエを踊りはじめて間もなく、突然幕が下りるというハプニングがありました。神父様のひと声で中止となったのです。薪ストーブ一つの暖房でも皆和気あいあいとして楽しんでおりました。物はなくとも心豊かな楽しいクリスマスでした。



テレジア 沼沢ふじ子

# 思い出

今も昔も御ミサは緊張の中に荘厳さと喜び、そして心の安らぎを誰しも感じて与っているのではないかと思います。

特にクリスマス深夜ミサには、神様が待っていて下さる聖堂に大勢の人々が集まって来る。薪ストーブの燃えさかる暖かい聖堂に方々から…

今思い出しているのは、深夜ミサに与る時の行き帰りのことです。50年も前のことです。当時、我が家には自動車などという文化的乗り物はありません。夜半ミサに与るには、夜11時前に家を出なければなりません。(ミ

サは午前0時)幼稚園児だった子供二人を連れ、一時間かけて歩いて教会に出かけました。すべる道を手をつなぎ、道路いっぱいになって遠いとも思わず歩きました。走る自動車はほとんどなく、自分たちのための「教会行き道路」のようでした。一時間ほどの御ミサも終わり、喜びに頬をそめ「おめでとう。おめでとう。メリークリスマス」等々互いに声をかけ合い、喜びのこぼれを交わしながら帰途についた。

しんと降る粉雪の夜道を眠気に促される二人の子供に声をかけながら帰路を急ぐのでした。



# わたしのクリスマス

インマヌエラ 工藤陽子

「クリスマス」の言葉を耳にしたのは、田舎育ちの私、何歳頃だったでしょうか。

あるとき、六歳の女の子が我が家の二階を見上げながら、真剣な表情で「サンタさん、いつくるの」と夢と現実が一緒の質問にとまどい、沈黙してしまった。

私は、中年以後、聖書を読みたいと思い、教会を訪れ、イエス様の誕生と歴史を学んだ。

見えない、誰も見たことのない存在でありながら、永遠にみことばを語り続け、静かに教え諭す…方、一人の「人」「神」尊敬の人として人々の心に生き続

けていられる…方、

先に私たちを無条件に愛し、呼んで下さった…方、老若男女に、みことばを通して自由と希望を与え続け、苦しみ、悲しみを共にし、誇らしい人に変えて下さる「救い主」それぞれの心にひびくよい知らせに耳をすませ、キリストに近づける喜びの日、「クリスマス」呼んで下さった方に「ありがとう」を言いながら、幼子のように待ち望んでいたいものです。

降誕節に、イエズス・キリストに出会える人が一人、二人ありますように、お祈りいたします。